

古田体制打倒！  
九項目実行貫徹！  
大学立法粉碎！  
帝大解体！  
安保粉碎・沖縄斗争勝利！

# 勝利

日本大学全学共闘会議

事務局 69.6.21 第5号

## 全ての討論の質を結集せよ！！

私達日大生が斗争を始めた時、その斗いは、悲想感にあふ  
れ最後の一步をかけたのふちにおいて、前途のみが「生」であ  
る事を訴えた。この緊迫感、斗いの広範な決起におて  
支えられ私達の実践そのものが「生」であり解放であり、  
鐵鎖を断ち切ったもののみが真に味わう事の出来る「解  
放」を言葉をかみしめて居る。巨万の人々の流れは、物に  
あふれ、何人も私達から自由を奪う事をなした。かた。  
しかも、急迫する状況は、現実の支配者、被支配者の和解  
する事の出来ない事を確認させ、激烈な斗いを展開していく  
のである。

私達の中から、それで去 権力者は、「笑み」を奪い、「解放」  
を奪う事を出来ないので居る。やがて私達の目的「大衆  
の解放=自己の解放」を物質化したバリエーションを  
築きあげた。私達は、今、私達の敵兵を打ち倒し、秘や  
かに武器を狙っている。ここで私達が通過して来た  
過程に於ける圧政下で私達が行なってきた事を  
主要な課題として提起したいと思ひます。

私達は最初から巨大であり、組織を去つて来た。  
組織を創設すべく、私達は、これ迄血みどろの論争を大衆  
的につづけて来た。それは、あらゆる面に渡り、討論をし  
最後に一つの結論を持った。取りわけハリスの提議  
の時、日共ニ反共、右翼、日和見主義者、革命派の諸層の論  
争は徹底した。そして正しい路線の決定を持って私達  
は勝利していった。私達は進んで大衆の中に入り、大衆討  
論をくり返した。体系会以外の人々に対して右翼、反革命  
といったものをする事さへなかつた。

この斗いの激突にある大衆の中へ、に語られる自己の解放  
を全体の解放へと媒介として行なわれている。  
しかも全共闘の闘争の中で、全共闘の中に芽はえていた  
自己別個主義による大衆の全共闘への解放を眼がす。  
それは、私達を生み出した。私達は、大衆の中へ入る事  
を、大衆の闘争の中に、行なう事をしなかつた。全共闘の闘  
争路線に対して、自己別個主義を眼がす。

何かかかっている私達は、自己の解放を目指して居るが  
私達の持っている思想性は、エゴイストが理想法  
に於けるものでなく、全人民の解放こそ自己の解放を  
もたらすことを知っている。

日大斗争の中で学びかた事は、大衆の中に入ることは、

(大衆の中の私達)

大衆に寄りかかり、自からの役割を放棄するのではない。  
彼等の所有せる疑問や矛盾に対して行動  
する事を語る事を提起する為にあつた。

とりわけ私達の行動は、大衆の大衆に対しての  
提起を連続的に行なつて来た。大衆の中へ  
70年を前にして大きく揺る動く大衆の中にある。  
私達は、今、大衆の中に入り大衆に対して、決  
起する事、討論する事を通して斗争の必要性を説  
いて私達の反抗の必然性を固く信じて居る。  
私達の私心を去るであろう時は、進んで大衆  
を日和見とののしる前に彼等の中へ、その事によって  
自からがスターリストとなる事を阻止し、「民の解放」  
を目指せ！！

1917年のロシア革命を支えたのは、ロシアの反動の  
史を打ち崩したのが、1875年に始まる学生を中心  
とした「内テロ」運動であつた。  
確かに彼等は強硬な闘いの方向性の内中で  
巨大な歴史を築き上げたが、彼等がロシア革命史  
の第一頁を閉じた事を認めなければならない。  
私達には、ロシア中心革命の教訓を、南ベトナム  
同志の闘いがある。

無条件に「大衆の中へ」流入していくのではない。  
多くの先人達の前に立ち、日本全人民の解放を目指  
して闘い抜こう。

大衆の中へ

大学立法粉碎！  
帝大主権的教員制廃止！  
安保撤廃！  
沖縄斗争勝利！  
日大闘争の質を結集せよ！！

## 全ての学友諸君！！

(ある行動隊より)

我々日本大学全学共闘会議にて結集して学友の最  
先頭となり、日大斗争を闘い続け、来た。活動家部  
隊は、昨年の10月以後、激烈に闘い続け、9月  
段階の経法委選出などという学生運動に例の  
ない革命的に闘って来た。この間、行動隊から  
別れて行く者、又新たに加入して来る者、数々ある。  
これは古田体制の身にくさに対して、怒りを持って  
日大全共闘に結集して来た。しかし、離れて行つた  
百田体制の強大さに対して日和見性も来ると  
れ、又行く活動家が結集した。  
大が学友諸君、この大衆の文を讀んで、  
活動隊の中には、自からの日和見性を打破出来ず、  
全共闘から離れて行く者ばかりではない。この百田  
体制打倒、又現在の激突程度に対して、予備を  
し、解放を遂げて自分でもアルバイトをし、活動セ  
てきて、闘い続けている学友が居る事を学友諸君